



# 府中地区保護司会だより

第36号

発行責任者 府中地区保護司会  
会長 保坂昌代

壬生町保護司会・更女会の方々と



## 「ようこそ府中へ 壬生町保護司会・更女会との交流会」

府中地区保護司会

副会長 高野佳子



府中公園の照紅葉に眼を奪われる十一月十四日、下野保護区保護司会壬生町分区分の保護司会・更生保護女性会二十名の皆さんが視察研修の折に、我が市府中へ足を運んで下さいました。機関誌「更生保護」二十六年五月号に、地方公共団体から見た「社会を明るくする運動」についてという高野律雄府中市長の記事が掲載されたことがきっかけとなりました。壬生町分区分長である大関和夫様から、「社会を明るくする運動」「学校・地域住民との連携」を効果的に進めるために、意見交換会の要請がありました。

壬生町は栃木県宇都宮市の南隣に位置し、原始から古代にかけての大遺跡の大古墳、また壬生城の城下町として、そして日光道中壬生通の宿場町として栄え、歴史と文化と伝統のある町です。

当日の交流会は、ルミエール府中講習会議室にて開催し、二時間半程のひと時でしたが、終始和やかに実り多いものとなりました。今回の企画・進行は研修部に尽力をいただき、「社会を明るくする運動」「学校との連携」「更生保護女性会の活動」についてそれぞれ概要発表を致しました。更生保護活動を担う仲間として思いは一緒であるという感を強く持ちました。今後も次代を担う青少年の健全育成を応援し、そして、更生を目指す人を支えるあたたかな地域社会づくりに寄与していきたいと思っております。

今回、壬生町の更生保護を支える皆様と繋がりが持てたことを大変嬉しく思い、素晴らしい出会いに感謝します。機会を作り、是非壬生の情緒ある街並みを散策してみたいと思えました。

さて、府中地区保護司会においては府中市のご協力をいただき、サポートセンター開設の運びとなりました。開設により活動拠点が確保され、保護司組織の活性化、保護司の資質向上が図られると考えます。そして府中地区更生保護女性会との連携をより一層密にして、更生保護活動を地域社会に広く理解していただける契機になることを期待します。

・我が行く道に茨多し、されどこの道を行く ・至誠天に通ず

一口メモ

人生は平坦な道ばかりではない。茨多いがあえてこの道を行くことは、自分を磨くことである。そして真心をもって事に当たれば、いつしか必ず認められ道は開ける。



## 未来を拓く保護司会 今後の展望

府中地区保護司会会長 保坂昌代

### 更生保護活動と地域づくり

保護司制度は、保護司が自分たちが生活する地域社会の安心・安全を実現するために、罪を犯した者の立ち直りを支え、その環境整備を図っていく地域住民参加型の刑事政策である。この制度は我が国の治安の大きな要となっており犯罪者の再犯防止や少年たちの犯罪予防・健全育成等に大きな成果を上げている。しかしながら現在は、新たな課題も山積している。刑務所出所者等の再犯防止に向けた社会内処遇の充実や高齢者の社会福祉と更生保護等がある。

地域の中での孤立（地域になじまない、不登校、ひきこもり）や貧困問題、二〇〇八年をピークに人口減少、今や日本社会は持続可能性の分岐点にさしかかっている。

更生保護活動と地域づくり、コミュニケーションづくりが安心・安全のまちづくりへと繋がっているこ

とを考えると、地域の要支援者を排除することなく寄り添い相談にのり、具体的な支援を諸機関や保護司、民生委員、地域住民等と連携して担うことが重要である。

### 今、何が課題なのか

府中地区保護司会においては、これからの数年間に任期満了により退任者が続出し、保護司の安定的確保については大きな課題となっている。

保護司適任者としての人材を発掘することはなかなか困難な状況にある。その大きな原因を挙げると、  
●「更生保護」という言葉が住民にはほとんど理解されていないために協力が得られていないことにある。保護観察対象者が地域や保護司の家庭に入り込むことや、その指導が困難であると考えられている。

●保護司としての仕事量が年々増加しており、その職務内容を消化するためには、ある程度の知識と

仕事の効率化のためのパソコン操作等を含む様々なスキルアップが不可欠の条件となっている。

●社会の急激な変化の中で、犯罪も複雑化・多様化しており、その更生指導はますます困難になってきている。犯罪や非行を犯した人たち一人ひとりの養育環境、障害の有無、人間関係等、保護司として適切な指導・助言をするためには、研鑽を積むことが強く求められている。従来の経験主義のみでは対応は不可能と考えられる。

### 今後の取り組みと展望

サポートセンターの機能強化

平成二十六年十一月より本市においては、地域の更生保護活動の拠点である更生保護サポートセンターが設置された。要である保護観察対象者との面接場所としては、地域住民の理解が得られなかった。サポートセンターの機能としては、保護司や更生保護女性会の各種会議、経験年数の少ない保護司に対する支援、犯罪予防活動の企画・運営、企画調整保護司の研修、関係諸機関との連携、保護者や地域住民への啓発活動の企画・運営、保護司間の情報交換等があげられ

る。処遇活動と地域活動の有機的連携を深めるため、これらの機能の充実と強化を図ることもまた課題であると同時に、今後への創造に向けた新たな活動となることを期待している。

保護司組織の運営や

組織的活動の活性化を図る

#### 視点①

一人の人間としての資質

保護司であると同時に一人の人間として社会に貢献する喜びや罪を犯した者を地域として受け入れ共に生きるという人間愛をもった個であることの自覚が大切である。

#### 視点②

一人の公民としての資質

保護司活動が自分にとってやりがいのある魅力的なものであり、社会の形成者の一人として自分自身を高めるものであるという考え方をもち、また大切である。

#### 視点③

地域と共に歩む保護司の資質

更生保護活動を考える時、地域や社会に開かれた組織であり、活動であるという考え方をもち、このことが更に保護司制度や組織活動が機能化し活性化すると考えられ

る。保護司活動の重要性や魅力を地域住民に周知し、理解や協力を

得る事が今一番求められている視点だと考えている。

### 「サポートセンターふちゅう」の開設

府中地区保護司会副会長 谷 合 隆



私たち保護司会に限らず、民生児童委員や交通安全協会・消防団等、いわゆるボランティアとして行政のお手伝いをしている個人や団体は日本各地に数多く存在します。活動を続けていく上でそれぞれ課題はあると思いますが、共通の課題の一つとしては、やはり「新しい人材の確保」が挙げられると思います。都市化の進むここ府中市でも、農家や自営業の方の減少と、長い景気の低迷によって他人の世話をやくほどの余裕がなくなつたというのが原因なのではないでしょうか。

さて、その課題に直面する私たち府中地区保護司の現状についてお話を致します。私たち保護司の従来の業務に加え、近年の犯罪傾向から、犯罪予防活動に力を入れるようになり、活動のポリュームが以前に比べ多くなつてまいりました。その上新

たに保護司を引き受けていただけの方を見つかるのは容易ではありません。

そんな中、所轄する法務省保護局より府中地区保護司会に対してサポートセンター設置の提案がありました。保護司会に限らず同じ目的をもつ関係諸団体の活動拠点となり課題解決の一助となることを願います。このサポートセンター開設につきましては、府中市の協力のもと、使用施設や地域住民の皆様とも協議を重ね開設することができました。安心・安全なまちづくりのために：

「まちづくりは人づくり」



### 交流会を振り返って

下野保護区保護司会

壬生町分区長 大 関 和 夫



私達が府中地区保護司会・更生保護女性会との交流会にお邪魔したのは、けやき並木通りの紅葉が真っ盛りの十一月中旬でした。

何かとお忙しい中、保坂保護司会会長・伊藤更生保護女性会会長をはじめ多くの会員さんのご歓待をいただきありがとうございます。

私達のような小さな保護司会・更生女会にもかわらず府中地区保護司会・更生保護女性会の活動状況について懇切丁寧に説明いただき大変勉強になりました。

壬生町更生女会  
藤田会長



ルミエール府中にて

今回の交流会の目的は、社会を明るくする運動における「町民のつどい」「学校訪問」「街頭広報活動」の活性化でした。

府中地区保護司会では既に十三年前から「学校との連携委員会」を組織し、「情報連携」から「行動連携」へと実践されていることに驚きました。

ご教示いただいた諸活動を参考に來年度の社会を明るくする運動にあたっては町の協力をいただきながら積極的に教育委員会・学校等に働きかけ、地域住民、学校参加型の社会を明るくする運動を展開したいと思います。



### 平成二十六年「第七ブロック保護司組織運営連絡協議会」

報告

広報部 大沢 美保子

平成二十六年「第七ブロック保護司組織運営連絡協議会」が、十月二十日(月)、立川グランドホテルにて開催されました(当番地区―北多摩西地区保護司会)。第七ブロックに属する五つの保護司会から約八十名の参加者があり、府中地区からは、十名の保護司が出席しました。東京都では、減少を続けていた保護司現員数が、平成二十六年九月一日現在三五〇一名、保護司充足率八十%となり、若干上昇に転じました。しかし、今後十年間で約四十%の保護司が任期満了による退任を迎える予定で、これからも保護司適任者をどのようにして確保していくかが重要な課題となっています。

そこで、昨年度に引き続き、本年度も「保護司の安定的確保について」が全ブロック共通の協議題となり、各地区からの基調報告に基づき、一層掘り下げた議論が行われました。メインテーマのもとに五つのサブテーマも設定されており、特に「保護観察所に依頼したいサポート」に

関しては、観察所から行政への働きかけを強化してほしい、保護司の仕事量軽減、ワークショップ形式の体験学習をふやしてほしいなど、多くの意見が出されました。

来年度の協議会については、府中が当番地区に当たり、平成二十七年十月二十六日(月)、府中グリーンプラザでの開催が予定されています。



### 第7ブロックの保護司充足率 (平 27. 1. 1)

保護区名	区域(市)	現在数/定数	充足率
北多摩東	武蔵野・三鷹 小金井・国分寺	102/129	79.1%
北多摩西	立川・昭島・国立・ 東大和・武蔵村山	163/192	84.9%
府中	府中	58/62	93.5%
調布・狛江	調布・狛江	78/79	98.7%
北多摩北	小平・東村山・清瀬・ 東久留米・西東京	133/170	78.2%

### 支援的なコミュニティーを

第十四回生活指導主任と保護司との懇談会報告

学校との連携委員会

杉浦 渉

### 養育者という成育環境

府中地区保護司会の担当保護司、中学校生活指導主任会の担当教諭からそれぞれ事例報告がありました。いずれのケースも、少年の問題行動とともに、その養育者が成育・成長の過程でどのようにかわってきたかが報告されました。そのことはまた、養育者自身が学校を含む地域社会とどのように接してきたかを示すものでした。青少年の成長・発達を促す環境要因の中で、養育者が占める存在の大きさに改めて気づかされるところにも、養育者の孤立を防ぐ手立てはどうあるべきなのかという課題の重さも受け止めました。

### 心の自立を支援するということ

二つの事例報告を受けて、都立小児総合医療センター副院長の田中哲先生から、「子どもの心の育ちと養育環境」というテーマでお話をうかがいました。以下要点を記します。

○近年子どもたちの自立へのルートが見えにくくなってきている。それだけ養育環境が難しくなっているということだ。○子どもをめぐる貧困は、「育てにくさ・育ちにくさ」を生じる負の連鎖に表れてきている。○子どもの成長を支えるのは親の安定性と子どもの安定性であり、それには心の骨格の育ちが必要だ。○子どもたちが必要とするコミュニティーとは、現実的な生きにくさを緩和して心の自立を支援するものである。

田中先生のお話を聞き終えて、「子育ては自分の成育歴をたどりなおす旅である」という言葉を思い出しました。その成育歴には、養育者はもとより学校・地域・社会をふくむ広い意味での養育環境という要因も働いているのだと思います。

### ◆ 来賓・出席者



- ・ 東京保護観察所 立川支部
  - ・ 府中市教育委員会
  - ・ 府中市立小中学校生活指導主任会
  - ・ 在府中都立高校
  - ・ 府中地区保護司会 計三十九名
- 十一月十三日実施



千葉刑務所にて

十月一日～二日、天気にも恵まれ、二十九名の参加者は、九時に府中を出発し、今日一日の始まりの緊張感を持ちながら、バスに身を委ねました。いつもは何気なく通り過ぎて行く首都高速、京葉高速道をガイドさんの説明に耳を傾けながら、二時間位で千葉市街に入りました。昼食後、

**宿泊研修**

**千葉刑務所視察と房総半島**

研修部 土田 三澄子

約東時間前に千葉刑務所の赤レンガ門前に到着しました。

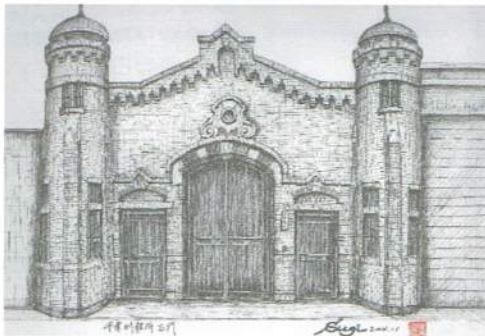


千葉刑務所は、明治四十年四月に竣工、当時としては、画期的なレンガ造りのイタリヤ式洋風建物であり建築家山下啓次郎氏の手によるものであり、一昨年に訪問した奈良少年刑務所と共に我が国建築史上名高いものです。当施設は犯罪傾向の進んでいない刑期十年以上の成人男子長期受刑者の矯正施設に指定されており、敷地面積、構内面積は広く、収容定員一三四二人に対して、現在一四六七人が収容されており、二六四名の職員の方々が、日夜矯正指導に携わっております。構内を案内していただきました。作業現場は落ち着いた雰囲気が高齢の受刑

者が目立ちます。作業技術のレベルは高く、特に革靴や神輿製作等は評価されております。質疑応答では、府中ならではのお祭りの神輿修理についての質問もありました。



翌日は、鯛由来のある鯛の浦船上遊覧と日蓮上人の誕生寺周辺を散策して、会員相互の親睦もでき、和やかな中に充実した二日間の研修日程を、無事終える事ができました。



画：杉浦 渉

いつもの実踏メンバー伊藤敏春部長（リーダー）・原田勝彦書記（ドライバー）・小澤秀敏（ナビゲーター）の三名で千葉刑務所・房総半島への実踏を行なったのは、本番三カ月前の七月五日だった。一泊二日コース約二百六十キロの行程を日帰りだ。

研修部副部長 小澤 秀敏

## 研修部こぼれ話

初日に予定している昼食場所、研修先の千葉刑務所、宿泊先の鴨川館の視察を無事に終え、次は二日目の訪問先で帰り道方向にある「仁右衛門島」へ。車が海に近づくと段々道が狭くなってきた。これでは大型バスで入って行くには厳しそう。早速、リーダーより「誕生寺」訪問に変更の提案があり、Uターンをして反対方向へ。そして日蓮上人誕生の地に建つ誕生寺と近くの鯛の浦を視察した結果、これらをセットにしたコースに変更することで三人の意見が一致した。

実踏した私としては、当日鯛の浦を回遊する鯛が見えたかどうかより、海が荒れずに遊覧船が出港できたことだけでも良かったなと思った次第である。

### 保護司会との 行動連携に込めて

府中地区更生保護女性会  
会長 伊藤 ゆきえ

本年度、市制施行六十周年記念の年に時を同じくして、更生保護サポートセンターがいよいよ府中に開設されました。

市が唱えるキャッチフレーズ「ともに未来へ・笑顔あふれるわがまち府中」は、犯罪・非行の無い明るい地域社会なくして成り立ちません。更生保護女性会は青少年健全育成、子育て支援活動、社会を明るくする運動、更生施設への支援、地域社会との交流・連携など、様々な活動に取り組んでおります。

保護司会が運営する更生保護活動拠点「サポートセンター」を得られた事で、再犯防止・犯罪予防・健全育成等事業の更なる方向性が確立されることと思えます。私ども更生保護女性会は、保護司と共に協働参画することにより、これまで以上に関係諸機関との連携も密となり、子育て支援（悩み相談・ミニ集会）等、より一層地域に根ざし寄り添い、

ニーズに即した手厚い効果的な活動に繋がるのではないかと考えております。

昨年三月全国保護司連盟・日本更生女連盟・日本BBS連盟各会長による協働に関する三者宣言は次の通りでした。

- 一 協働してそれぞれの地域社会における豊かで、受容的な人間関係の実現を目指す。
- 一 各団体一層強固な信頼関係の構築に努める。
- 一 地域社会ニーズに関する情報把握と共有に努める。
- 一 協働による活動成果向上に努める。

(一部割愛)

ロシアの文豪トルストイの言葉に「善を行うには努力が必要だが、悪を抑制するには一層の努力が必要だ」と。「犯罪を抑制することの難しさ。かつて地球上から犯罪が無くなったことがない」と。  
安心安全、子どもたちの未来を願う地域の人たちの深い想い、そして自助・共助（互助）・公助の心、地域社会のネットワークをもって保護司の皆様と共に力を合わせ、楽しく推進して参りたいと思っております。

### 生命のメッセージ展

本部役員 西谷 照代

十月二十八日（火）関東医療少年院体育館に於いて「生命のメッセージ展」があり、三名で行って参りました。

交通事故やいじめ等で犠牲になった方々一人ひとりの等身大の人型に彼らの素顔や遺された家族からのメッセージ、遺品の靴等も添えられていました。また、事故当時の新聞報道が載っている人型もありました。遺族の方々の気持ちを考えると涙が止まらず、最後まで見る事ができませんでした。

主催者の方の説明では、このメッセージ展の開催に当たり「最初は矯正施設で実施することに少し抵抗がありました」「会場では来場者お一人おひとりに、命への愛おしさを赤い毛糸に託して繋げています」等のお話がありました。私も十センチメートルの赤い毛糸をいただき結びました。その横には約十三年の間に来場者が結んでできた大きな大きな赤い毛糸玉がありました。これから大勢の方々が結び繋げていくことができるでしょう。

### 社会参加活動 12月6日 大國魂神社境内にて



松本禰宜による講話「神話と神様」



境内の落葉掃き

# 平成二十六年(秋)受賞者

○法務大臣表彰

白井 正  
保坂 昌代

○全国保護司連盟理事長表彰

高野 佳子

○関東地方更生保護委員会

委員長表彰  
市川 一徳

○関東地方保護司連盟会長表彰

高野 淳二  
筒井 孝敏  
三浦 智恵美



○東京保護観察所長表彰

朝倉 俊夫  
木村 講和

堺 美佐子

田中 節子

内藤 安雄

吉野 博文

○東京保護観察所長感謝状

(家族功労) 西谷 道郎

○東京保護司会連合会会長表彰

市川 耕作

伊藤 仁

小澤 秀敏

小澤 量

佐藤 新悟

佐藤 政利

那須 史子

奈良崎 芳恵

原田 勝彦

室 惇子

○府中地区保護司会永年在会

(十年) 市川 一徳

筒井 孝敏

○社会を明るくする運動

東京保護観察所長感謝状

府中市立府中第八中学校

三年 岡部 菜摘



更生保護女性会

○法務大臣感謝状

伊藤 ゆきえ

○関東地方更生保護委員会

委員長感謝状 高野 佳子

○東京保護観察所長感謝状

中島 清子

○東京更生保護女性連盟会長表彰

堺 美佐子

## 新任ご挨拶



森岡 潤家

平成二十六年十二月二十二日付けで保

護司を拝命いたしました森岡潤家と申します。東京保護観察所本庁及び立川支部での研修を修了し、保護司の業務の一片を垣間見た程度ではありますが、責任ある大変な業務であることを改めて実感しました。先日、私が配属されました研修部会に参加させていただきましたが、先輩方に丁寧な教えていただきたく機会を得、ほっと一安心するとともに、未知の世界であり不安もございますが、精一杯頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻を願ひ申し上げます。

## 【その他の参加行事・研修】

九月

\*府中市心身障害者福祉センター 運動会

十月

\*更生保護制度施行六十五周年記念 全国大会

\*府中刑務所 運動会

\*第五回たちかわ あすなろフェスタ

\*関東医療少年院 運動会

\*第三十六回関東地方更生保護大会

十一月

\*府中刑務所 文化祭

\*就労支援シンポジウム

\*社会貢献活動(安立園)

\*二十六年度

東京更生保護事業関係者顕彰式典

十二月

\*関東医療少年院 クリスマス会

\*保護司特別研修(社会貢献活動及び刑の一部執行猶予について)

一月

\*関東医療少年院 成人式

\*二十六年度薬物専門講師研修会

二月

\*保護司特別研修(経済的支援を必要とする対象者の処遇)

\*二十六年度多摩連保護司研修

三月

\*紫翠苑公開シンポジウム

### 府中往来

## ふるさと府中歴史再発見(十五)

# 生まれ変わった府中市郷土の森博物館

郷土の森博物館 深澤 靖幸

### 常設展示室リニューアル完了

昨年十月、約一三〇〇㎡の常設展示室のリニューアルが完了しました。

今回のリニューアルでは、原始から近現代そして自然を紹介する六つのコーナーを開設しました。二〇〇八年度にリニューアルしていた「くらやみ祭」のコーナーとあわせて、府中の歴史と文化、自然を総合的に示した展示室がようやく完成したのです。

郷土の森博物館は一九八七年四月の開館ですから、実に二十七年ぶりに新しい展示室になったのです。常設展示室は、あらゆる博物館活動の核となる空間ですから、まさに郷土の森博物館そのものが、二十七年の歳月をかけて生まれ変わったといつてよいでしょう。

### 府中ならではの博物館に

リニューアル最大のセールスポイントは、「府中ならではの歴史・文化・自然を取り上げ、その情報を発信することのできる展示室へ脱皮したことでしょう。

具体的には、「くらやみ祭」「古代国府」「近世府中宿」を大きく取り上げています。武蔵総社である大國魂神社の例大祭で、国府祭の伝統を持つくらやみ祭は、多くの市民が参加し、熱気あふれる壮大な祭です。

また、古代国府の設置によって府中は地域社会の中心としてのマチの形成がはじまり、近世には甲州街道の宿場町として姿を変えつつも、地域社会の中心であり続けました。府中の歴史と文化を語るうえで大きなテーマを重点的に扱うことで、他の博物館とは違った個性豊かな博物館となっているのです。

もちろん、個性を強調しただけではありません。臨場感あふれるジオラマや映像、音響を取り入れています。出土品や古文書、標本を見ただけではなかなか想像することのできない時代や自然環境の雰囲気、五感で感じることで、できる展示空間にもなっているといます。

そしてまた、本物をみる、という博物館の基本も忘れることなく強く意識しました。裏側をみたい、もっと近づいてみたい、そんな欲求にも応えられるよう、展示ケースや照明にも工夫を凝らしています。是非、五感で楽しみながら、本物をじっくりみていただきたいと思えます。



### 編集後記

「どんなに苦難な状況でも、人にはそれを乗り越えられる強い能力が備わっていると思う。その力を引き出すには、偏見や差別、無関心を無くし周囲の愛情や信頼、それにサポートが不可欠だ」。記憶で書きましたが、全国中学生人権作文東京都大会での発表の一部です。

更生保護の活動は真にこの一部分を担っているものと思われまふ。この声を改めて心に刻み、より深く学び、この意識を高めていきたいものです。その日々の活動内容を、ご多用の中ご執筆いただきました皆様にご心より御礼申し上げます。

室 惇子

### 広報部

部長	加藤 茂	木村 講和
副部長	堺 美佐子	室 惇子
書記	大沢美保子	伊藤 仁
会計	田中 節子	伊藤ゆきえ
部員	小澤 宏	杉浦 涉
	赤塚 正坦	中込八重子

題字は高野市長の揮毫によるものです